

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271402374
法人名	有限会社 アプリーレ
事業所名	グループホーム あさひが森
訪問調査日	平成 20 年 2 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 30 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271402374
法人名	有限会社 アプリール
事業所名	グループホームあさひが森
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市布津町甲489 (電 話) 0957-72-3592

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年4月30日

【情報提供票より】(平成19年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤	2 人,	常勤換算	9.3 人

(2)建物概要

建物形態	併設(単独)	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・シーツ 4,950円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(4)利用者の概要(平成19年 11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低 65 歳	最高 103 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人栄和会泉川病院、池田病院、前川歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームでは、利用者に家庭と同じようになごやかで生き生きとした毎日を過ごしてもらえよう独自の理念を掲げ支援に努めている。
すぐ近くに同系列の保育所があり、毎月のように園児がホームを訪れるなど、頻繁に交流しており、地域の文化祭などでも地域住民と交流を図っている。
職員は、利用者本位の考えを常に持ち、どうすれば喜んでもらえるかを一番に考え、利用者の意向や希望を大切にしており、実行可能な介護計画を作成し、定期的なアセスメントによる見直しを行いながら、利用者一人ひとりのできることや以前の趣味を継続して過ごしてもらえるように支援している。また、医療連携体制を整え適切な医療が受けられるようにするなど、利用者や家族が安心してサービスを受けられる体制づくりに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	前回の外部評価において課題となっていた包丁や洗剤等の危険な器具等の保管については、その後の会議ですぐに話し合われ、きちんと管理し保管するよう取り組んでいる。また、研修や計画の作成等についても、少しでも改善していくように、十分に話し合いを行っており、記録が残されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
②	自己評価の取り組みに関しては、管理者が中心に取り組んでおり、職員一人ひとりの意見や考えが十分に反映されていない。今後は、職員全員が振り返りながら自己評価に取り組まれるよう期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
③	運営推進会議は2ヶ月に1回の割合で定期にきちんと開催しており、外部評価の結果や行事、制度等多岐にわたって検討、意見交換が活発に行われている。また、会議で話し合われた内容について、職員会議の場で説明や協議をしっかりと行い、必要な改善や取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
④	家族の面会時には、できるだけ家族と話す機会を設け、意見や要望を聴くように努めている。毎月カラー刷りのお便りを家族へ届け、ホームでの利用者の生活状況を知ってもらい、意見や改善点を出してもらえるよう心がけている。あまり面会のない家族や意見を言われない家族へ対しても、少しでも要望を汲み取れるよう、電話や便りによる働きかけを継続されるよう期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
⑤	同系列の保育所の園児との交流が毎月行われており、地域の文化祭へは毎年利用者の作品を出展して交流を図っている。しかし、地域での季節のお祭りや行事などへの参加が少なく、今後は地域の行事への参加や日常的な交流が活発となることを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あさひが森では、あなたの家族と同じようになごやかで生き生きとした毎日を過ごせるように、という独自の理念をつくりあげ、理念のとおり利用者に楽しく過ごしてもらえよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議などで職員が集まる時に、常に全員で理念を唱和し心に留めている。また、日々家庭的な明るいホーム作りを目指し、職員同士で挨拶など気がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ近くにある同系列の保育所と毎月交流の機会を設けている。また、毎年地域の文化祭に利用者全員で作成したちぎり絵を出展しており、地域住民との交流の機会となっている。	○	今後、地域の様々な行事等への参加や、いつでも地域の人達が遊びに来られる開かれたホームとなるよう積極的に取り組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で改善が求められた項目について、会議で話し合い積極的に取り組む姿勢が見受けられる。昨年課題となっていた危険な器具の管理に対してもしっかりと取り組んでおり、顕著な改善が窺える。しかし、自己評価についての事前説明や職員の意見の反映が十分でない。	○	評価項目について職員への周知を図り、職員一人ひとりの意見を聞く機会を設け、全員で自己評価に取り組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に実施しており、出席者からの意見や助言が活発に出され、記録にきちんと残されている。また、出席者からの意見は必ず職員会議で報告し話し合っており、取り組みに繋げる姿勢が見受けられる。		

長崎県 グループホームあさひが森

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の構成メンバーとして行政職員1名に参加してもらっているが、その他の交流はあまりなされていない。	○	今後は、市の担当者や関係機関にホーム側から情報提供をするなど、積極的に働きかけながら、日常的な関わりの機会を増やして多角的な意見を聞き取り、さらにサービスの向上に繋げていくことを期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラー刷りのホーム便りを毎月家族に送付しており、併せて健康状態やホームでの様子なども知らせている。金銭を預かっている利用者の家族へは1ヶ月単位で収支報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族がホームを訪問した際には、職員から積極的に家族とコミュニケーションを図り、意見を聴くようにしている。	○	訪問が少ない家族に対しても電話やその他の方法により、引き続き意見を吸い上げる努力をするとともに、意見や希望が少ない家族についても様子などから意向を汲み取るよう努めることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の異動は時々あるが、普段からユニット間は自由に行き来しており、馴染みの関係を大切にしている環境となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で研修の機会を設けたり、外部研修の案内を周知したりして、できるだけ学びの機会が確保できるようにしている。また、研修に参加した職員は、必ず会議の場で他の職員に向けて研修の報告を行い、互いに研修の内容を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会を通じた交流の機会はあるが、まだ十分に活用されていない。	○	今後、他のホームを見学したり、他事業所の職員と意見交換をしたりする機会を積極的に作り、異なった視点から自らのケアを振り返り、サービスの向上に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に合わせて、家族と相談しながら家族等に頻繁にホームに来てもらうなど、臨機応変な対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみ、漬物漬け、干し柿作りなど、利用者一人ひとりができることを職員と一緒にしたり、時には利用者に先生になってもらったりして、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者本位」の考え方を常にもって対応するよう気がけ、利用者の意向の把握に努めている。自分の意思をはっきりと伝える利用者が多いこともあり、何事も利用者の希望や意向を聞いて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者それぞれに担当職員を決め、本人や家族の意見を出してもらえよう働きかけ、ケアマネジャーとともに実行可能な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとにアセスメントを行い、介護計画の見直しをしている。また、状態に変化があった際には、家族とも相談しながら随時状況に合わせた見直しを行っている。	○	3ヶ月毎の見直しがきちんとなされ、記録等が整理されている。今後は、より評価可能で具体的な目標を定め、到達後はもう一歩前進した目標へと繋げていくことでさらなるサービスの向上が期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療面では、医療連携体制を整え、看護師からの助言や支援を受けながらケアに取り組んでおり、通院等にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせてかかりつけ医を決めており、継続的に適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望を優先的に考え、家族や医師などと話し合い方針を決定している。職員は、家族の思いを大切に、方針を共有して支援できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的には言葉かけや対応に十分留意している。訪問調査の際に、居室にて骨折した利用者があり本人の不安もあったため、共有空間の片隅に目隠し用のつい立をしてポータブルトイレを設置していた。緊急対応であるが、プライバシー確保等の面で気になる面がある。	○	緊急の対応であることや、プライバシーに対する家族への同意が得られているということだが、今後、トイレでの排泄に移行できるような支援や代替ケアの可能性の検討が期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調を考慮しながら、どうすれば喜んでもらえるかを一番に念頭に置き、それぞれのペースを大切に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は事前に作成しているが、利用者が食べたいものがあれば献立を変更し、希望に沿った食事を提供できるように工夫している。職員1名が検食担当として一緒に食事をしているが、他の職員は別の場所で食事をしているため、見守りや言葉かけが不十分になってしまう。	○	たとえ同じ食事を摂れなくても、テーブルでの見守りや楽しい雰囲気作り、声かけなど、様々な工夫や取り組みを検討されることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を1日おきに設定しているが、現在のところ利用者からの希望に沿って支援できており、落ち着いて入浴ができています。	○	今後、様々な希望に対して、日にちや時間を限ることなく、柔軟に対応できるような体制を整えることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には、漬物作りや草取りなど、それぞれができることを役割としてお願いしており、利用者と職員が一緒に取り組んでいることもある。また、楽しみごととして、読書やカラオケなど、以前からの趣味を継続してもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や利用者の体調に合わせて、近くの公園への散歩や買物、季節の花見など外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として夜間以外は鍵をかけておらず、安全に配慮しながら支援している。	○	今後も鍵をかけない取り組みや工夫を継続するよう期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を毎年2回実施しており、地域の自治会への協力もお願いしている。また、避難誘導についてはマニュアルも整備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や身体状況をきちんと記録し、利用者の健康管理に配慮している。また、食事の栄養バランスにも考慮した献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくよどみのない清潔な空間で、ゆったりと過ごせるようソファが配置されている。心地よい共用空間となっているが、現在骨折している利用者への緊急対応として、片隅についたてを置き、ポータブルトイレが設置されているのが気になる点である。	○	共用空間のポータブルトイレ設置については緊急対応としてやむを得ないということだが、プライバシーの保護の問題とも関連し、排泄の支援については代替ケアなどの検討を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとソファ、箆箆は備品として設置しているが、利用者が自宅から馴染みの物品を持ち込めるようにしており、仏壇などを持参している利用者もいる。		